

## 8. 家庭科論文

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ

### 自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業の創造Ⅲ

～よりよい家庭生活を生み出す学習指導～



I 研究の立場	99
1 研究の歩み	99
2 本年度の研究の方向	99
II 本年度の研究内容	100
1 よりよい家庭生活を生み出すとは	100
2 よりよい家庭生活を生み出す学習指導とは	101
3 よりよい家庭生活を生み出す学習指導の具体化	102
(1) よりよい家庭生活を生み出す学習内容	102
(2) よりよい家庭生活を生み出す指導方法	102
III 授業プラン例	105
第5学年 「気持ちよく生活しようⅡ～冬を快適に過ごそう～」	105
IV 研究の成果と課題	109
1 研究の成果	109
2 研究の課題	109



## I 研究の立場

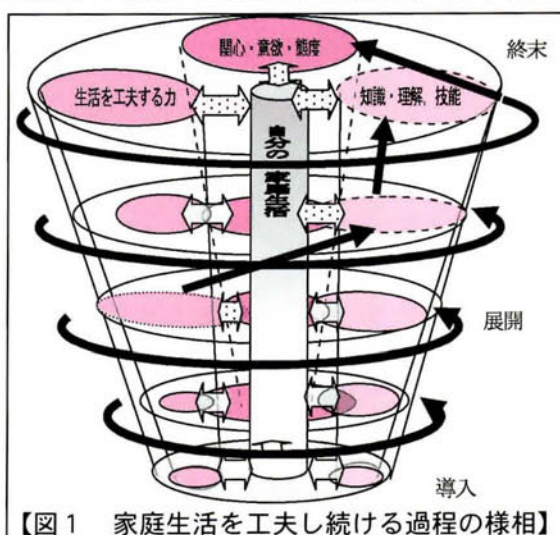
### 1 研究の歩み

本校家庭科では、平成15年度から3年間、家庭科における「思考力・判断力・表現力（＝生活を工夫する力）」の発達特性を洗い出し、学習内容の設定の研究をしてきた。その結果、子どもたち自身がわかったことやできるようになったことを、実感しながら学習を進めることができるようになった姿が見られた。また、教師も、目標とする子どもが「わかる・できる」姿を明らかにし、それを実感できるような授業を展開することができた。

しかし研究を進める中で、学習中に子どもたちが自分の家庭生活を工夫し続ける姿が見られないときがあった。それは、自分の家庭生活で生かせるだけの自信がついていないために学習したことが次の学習に生かされないときや、よりよい家庭生活にするために自ら学習を主体的に進めることができないときであった。このことから、これまでの研究で培ってきた「生活を工夫する力」や「知識・理解、技能」を発揮させながら、自分の家庭生活をよりよくしようとする工夫し続ける姿を見出していけるような研究の必要性を感じた。

そこで、18年度からは、自分の家庭生活を工夫し続ける授業の創造を目指し、基本的な考え方を明らかにしたり（1年次）、培いたい三つの力を確実に身に付け、設定した目指す姿が表れるように、学習内容を見直したりして（2年次）、研究してきた。

昨年度までの研究から、自分の家庭生活を工夫し続ける姿を見出し、その姿が表れるように学習内容を見直したことで、子どもたちが、家庭生活に生かせる力（三つの培いたい力）を実感できる授業を展開するために、学習内容の要件を見出すことができた。このことから、学習して学んだことは自分の家庭生活とつながっていることが分かった。（図1）



【図1 家庭生活を工夫し続ける過程の様相】

### 2 本年度の研究の方向

家庭科では、題材全体を通して自分の家庭生活とのかかわりを感じ、よりよい家庭生活を求め続けて学習を展開していくことを目指している。このことを目指して研究した結果、前の項で述べたような成果が得られた。しかし、培いたい三つの力のつながりだけでなく、題材の導入期の家庭生活に関心を持つことから始まり、終末期においても学んだことが実践的な態度に表れるようにするためには、一題材学習中に、学ぶ意欲を持ち続けていくことが大事であることを課題として改めて感じた。

本校家庭科における学ぶ意欲とは、学習する中で、新しく学ぶ家庭生活の仕組みのよさや方法を学び、自分の家庭生活をよりよくしていこうとする力である。この学ぶ意欲を身に付けていくためには、「自分の家庭生活をよりよくしていこう。そのためには、新しく学習する内容を自分の家庭生活に応じた工夫として生み出そう。」とする意欲を高められるような授業を展開する必要がある。

先に出された小学校学習指導要領案（h20. 2. 5）においては、自立的に生きる基礎を培うための指導の充実や、問題解決的な学習のより一層の充実、学習と家庭との結びつきを留意した学習内容を考慮することが求められている。このことは、子どもたちの学びが、家庭生活とのつながりを大事にし、自分で生み出していけるようにしていきたいと考えて



いる本校家庭科の研究ともかかわりがあると考え。

以上のことから、家庭科では、これまでの研究を継続しながら見直した学習内容の確実な定着を図るとともに、自分の家庭生活を工夫し続ける姿をより見出すことができるような学習指導の具体化を図ることとする。学習内容や指導方法、つまり、学習指導の具体化を図ることにし、本年度の研究テーマを以下のように設定した。

### 自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業の創造Ⅲ ～よりよい家庭生活を生み出す学習指導～

本研究においては、これまで食生活関連学習、衣生活関連学習において研究を進めてきた。しかし、日頃の子どものたちの学習の様子を見てみると、住生活関連学習においては、学習したことを自分の家庭生活にどう置き換えて生かせばいいのか具体的なイメージを持ちにくい様子が見られた。そのため、子どもにとって、学んだことと自分の家庭生活とのつながりの実感が薄く、自分の家庭生活を工夫し続ける姿へとつながりにくいという課題が見られた。そこで今年度は、住生活関連学習について研究を進めていくことにする。

## Ⅱ 本年度の研究

### 1 よりよい家庭生活を生み出すとは

子どもが自分の家庭生活を工夫し続けることができる学習を進めるためには、新しい学習内容に出合った子どもが、自分の家庭で生かせるようになりたいという思いの下、比較、関係付けなどをして追求していく中で、工夫するよさや生かし方がわかることが大切である。そして、生かし方がわかるだけでなく、よりよい家庭生活にするために、自分の家庭生活に応じた工夫へと追求していくことで、子ども一人一人の家庭で生かせる力へとつながる。このように、子ども一人一人が自分の家庭で生かすために学んでいく意欲を高めることを「よりよい家庭生活を生み出す」こととおく。

よりよい家庭生活を生み出すためには、学ぶ意欲を内面から支える基になる感覚があると捉える。この感覚は、子どもの学びの過程において、学びを味わう喜びや楽しさであり、よりよい家庭生活を生み出そうとする原動力となる。家庭科では、学ぶ意欲を支える感覚を、表1のように捉えた。この感覚を味わっているときに、子どもの学ぶ意欲は高まっていくと考える。なお、ここに挙げる感覚は、それぞれに単独で表れるものではなく、他の感覚と複数になって表れると考える。よって各学習場面では、色濃く出る感覚はあるが、そのみではない。さらに、各内容項目に応じて現れる感覚の順序は異なってくる。

【表1 よりよい家庭生活を生み出す基になる感覚と味わっているとき】

よりよい家庭生活を生み出す基になる感覚	よりよい家庭生活を生み出す基になる感覚を味わっているとき
自分の家庭生活の実態を受け止め、よりよくしていこうという必要感・・・・・・・・・・ア	「わたしの机の引き出しは、1つしかない。そのような条件の中でもよい工夫がないかな。」
自分が追求する課題や解決方法が決定し、やれそうだと感じる自己決定感・・・・・・・・・・イ	「机の中の整理整頓の仕方は、インタビューなどをして解決できそうだ。」
自分の課題を解決できた、やり遂げたという有能感・・・・・・・・・・ウ	「自分の机の中の整理整頓のこつを見付けられたぞ。」
分かるようになったり、できるようになったりしたことや、自分の家庭生活や次の時間に生かせると感じるという効力感・・・・・・・・・・エ	「図書館の本は、使用者の使いやすさという点から整理されていることが分かった。」 「〇〇さんの整理整頓の工夫の仕方を自分も取り入れられそうだ。」
自分の考えが、他者に受け入れられ、役立った、学び合えたと感じるという有能感や受容感・・・・・・・・・・オ	「ぼくが追求した本棚の整理整頓の仕方をみんなに発表でき、分かってもらえてよかった。」



よりよい家庭生活を生み出すためには、生みだそうとする情意面（感心・意欲・態度）だけでは、十分培えるものではない。認知面（知識・理解，生活を工夫する力）や精神運動面（技能）で培った工夫の仕方や工夫するよさとの関連にも着目していく必要がある。第5学年の『すっきりぴかぴか大作戦』では、ただ、「掃除をしたい。」という思いだけでは、三つの培いたい力を身に付ける学習の高まりは十分でない。そこに、掃除の役割といった認知面や掃除の仕方といった精神運動面がかかわっていくことで、「やっぱり掃除をした方がいいんだ。」というように、学びのよさを実感することができる。このように、よりよい家庭生活を生み出す姿には、情意面だけでなく、認知面や精神運動面とかかわり合っていくことで、よりよい家庭生活を生み出す力を十分に発揮することができる。

つまり、よりよい家庭生活を生み出すことは、先に挙げた感覚が原動力になって、三つの培いたい力とかかわりながら学ぶ意欲を高めることである。今年度研究する住生活関連学習に置き換えると、自ら進んで、自分の家庭生活から見出した住まい方に関する課題を調べたり、住まい方の工夫の仕方やそのよさを話し合ったりする活動を通して、自分の家庭生活に応じた住まい方の工夫を生み出すよさを味わうことである。わたしたちが目指す授業は、表1に挙げた家庭生活を生み出す基になる感覚を味わわせ、家庭生活を工夫する価値やよさを実感していく姿を目指すことにする。

**2 よりよい家庭生活を生み出す学習指導とは**

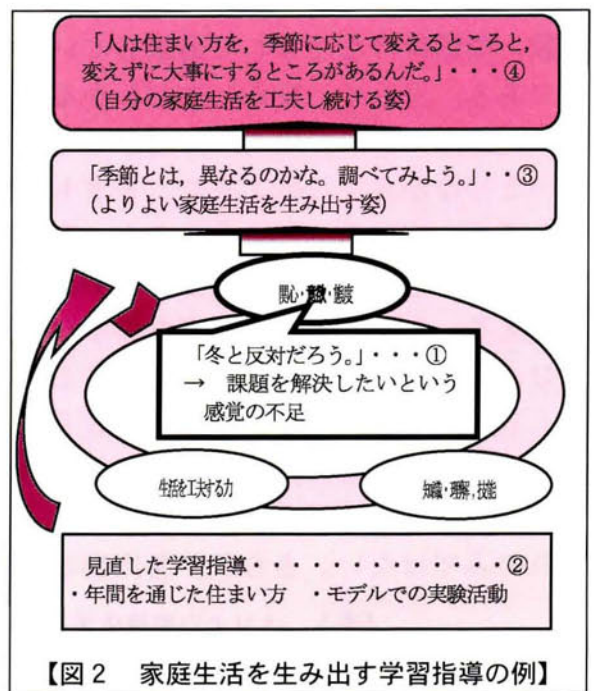
よりよい家庭生活を生み出す学習指導とは、子どもがよりよい家庭生活を生み出すために、教師が考える手立てであり、学習内容と指導方法が含まれる。

例えば、これまで取り扱っていた第6学年の『夏を快適に過ごそう』では、子どもたちは、「以前に学んだ『冬を快適に過ごそう』と季節が反対だから、調べた結果も全部反対にすればよいだけなのだろう。」と、調べる必要性を感じていない子どもが多く、出合った課題を解決したいという感覚が弱く<sup>①</sup>、このことが家庭生活を生み出すことの低下を促し、生活を工夫する力が発揮されない結果につながっていることが分かった。

そこで、追求の視点を、年間を通じた人の住まい方に視点を移して追求させ、部屋に見立てたモデルを使用し、実験する活動を多く取り入れた<sup>②</sup>。

この見直しから、快適な住まい方を、季節に応じて変化させる必要性や季節を問わず大事にすべきことがあることに気付くことができた<sup>③</sup>。そして、自分の家庭生活での実現でも季節に応じて変化すべきことと、通して大事にすべきことを押さえて実践できるようになった<sup>④</sup>。

このように、よりよい家庭生活を生み出す中で、培いたい力が達していない状態が見られた時、不足している感覚を見出す。そして、その感覚を味わえるような学習指導を設定していくことで、培いたい力を身に付け、自分の家庭生活を工夫し続ける姿へとつなげるようにする。



【図2 家庭生活を生み出す学習指導の例】



### 3 よりよい家庭生活を生み出す学習指導の具体化

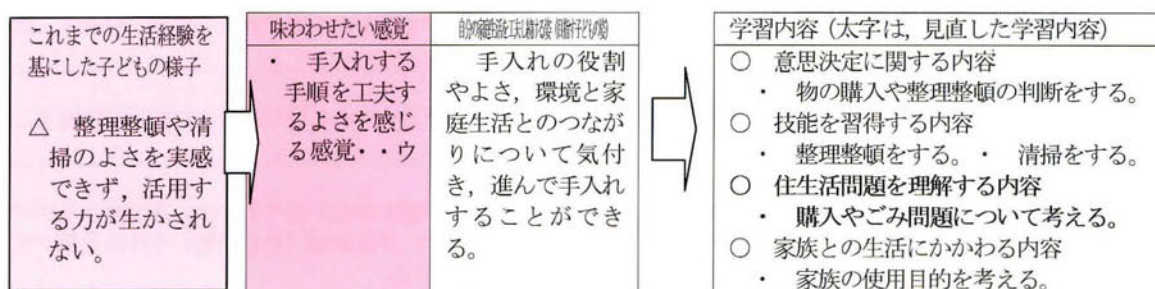
これまでの授業における子どもの姿から不足している状態を見取り、味わわせたい感覚を明らかにして学習指導を見直していく。

#### (1) よりよい家庭生活を生み出す学習内容

本校家庭科では、住生活関連学習として3題材を位置付けている。これまでの子どもたちの様子から学習内容を見直し、自分の家庭生活を工夫し続ける姿を目指す。

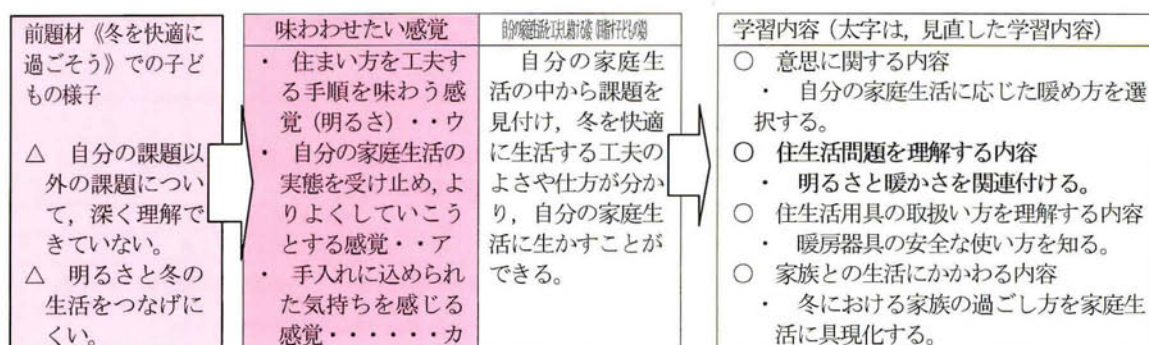
#### 第5学年題材【気持ちよく生活しようⅠ～すっきりぴかぴか大作戦～】

身の回りの整理整頓や清掃を通し、快適に生活するよさや方法を学ぶ。



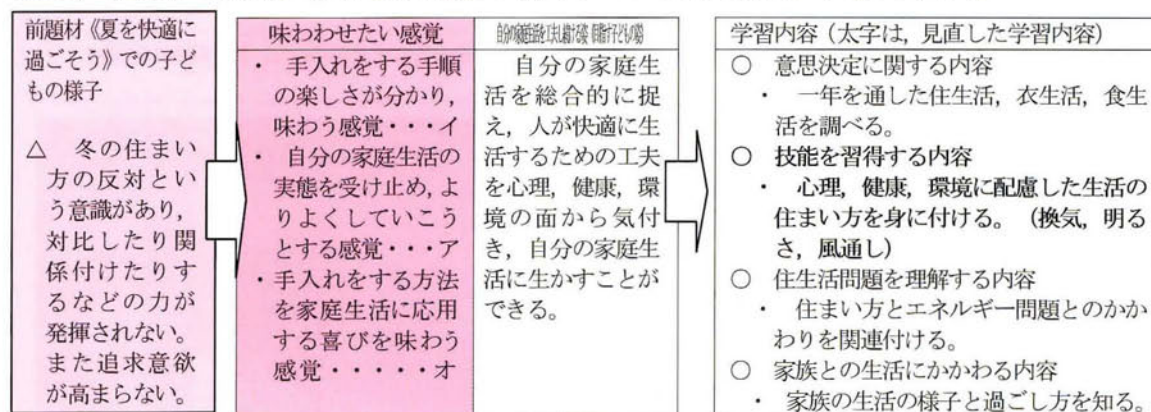
#### 第5学年題材【気持ちよく生活しようⅡ～冬を快適に過ごそう～】

冬の快適な生活の仕方について、住生活を中心に学ぶ。



#### 第6学年題材【気持ちよく生活しようⅢ～快適生活プラン～】

心理、健康、環境を考慮した住まい方について住生活を中心に学ぶ。



#### (2) よりよい家庭生活を生み出す指導方法

よりよい家庭生活を生み出すために、設定した学習内容を展開する中で、培いたい力を発揮して感覚を味わわせることができるために、指導方法を工夫する必要があると考



える。そこで、よりよい家庭生活を生み出す指導方法は、表2のような基本的な考え方を基に位置付ける。

【表2 よりよい家庭生活を生み出す指導方法の基本的な考え方】

観	基本的な考え方
学習過程	【問題解決的な学習】 家庭生活の中から課題を見出し、追求し、家庭生活へと生かすという学習を積み重ねていくことが大事である。子どもたちが、「わかった」「できた」という実感が持てるような授業を展開する。
学習活動	【課題別学習と学び合い】 課題別学習のよさは、一人一人の「分りたい。」という意欲に、より結びついていく。また、全員が追求する事項と各自の家庭状況に応じて選択する事項とに分けて学習を展開していく。
学習形態・場	【グループ、個人、一斉の形態】 課題別追求では、同じ課題グループで取り組ませる。他に、自分の家庭生活に置き換える活動では個人、他の人の課題との情報交換は、一斉学習の場を設ける。
教師働き	【板書、助言】 子どもたちの学び合いが深まるように教師は、気付かせたい視点をしっかりと持てるような板書や助言をしていくようにする。
評価方法	【自己評価と相互評価】 自由記述による評価（自己評価）を用いるとともに、有用感や受容感を味わわせるための、実演によるパフォーマンス評価（相互評価）や、自己決定感や効力感を味わわせるための、作品評価（自己評価）や作品を用いての情報交換によるパフォーマンス評価など（相互評価）を取り入れたりする。

よりよい家庭生活を生み出すためには、これまでの指導方法を、「自分の家庭生活に生かせることを実感し、生かすために自分の工夫を生み出すことができた喜びや楽しさを味わわせる」という視点で指導方法を吟味することが大切である。そのためには、味わわせたいと考える感覚が発揮されるようにしていく。例えば、評価方法についての工夫は、以下のようにした。

【振り返りカードによる評価（自己評価、相互評価）】

有能感や効力感を味わわせるために、振り返りカードに学習から得たことを記入させる。

【表3 振り返りカードに記入する際の教師の助言】

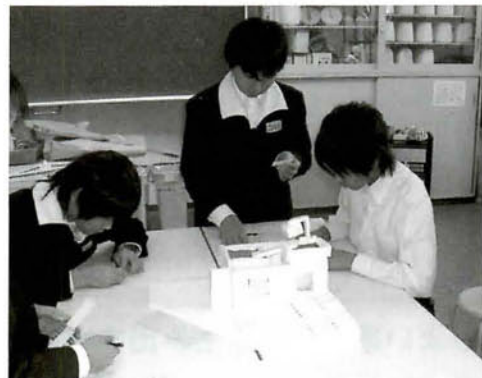
過程	意欲	今日の学習で分かったこと	家庭での生かし方	
			次の時間に学習すること	
導入期 (必要感を 中心に)	1~4 までの 数値	⑧ 分かっていることと分かっていないこと、できていることとできないこと。	⑧ 自分の家庭生活のどの場面から課題が見付かったか。	⑧ どんな方法で課題を解決できそうか。
展開期 (自己決定感、 有能感、 効力感中心)	1~4 までの 数値	⑧ 課題追求から何が分かり、何ができるようになったのか。 ⑧ どんな方法で課題を追求できたのか。	⑧ 自分の追求は、家庭生活で、いつどのように生かせるか。	⑧ 今後の追求の方向性（変更も含む。）
終末期 (効力感、有用 感、受容感を 中心に)	1~4 までの 数値	⑧ 他の課題追求から何が分かったか。 ⑧ 友達のどんな意見が参考になったか。 ⑧ 何が、どのようにできるようになったか。	⑧ 他の人の追求結果を、自分の家庭生活でどう生かそうか。	⑧ 分かったことの中から、どう実践するのか。

【実演などによるパフォーマンス評価（相互評価）】

有用感や受容感を高めるために、課題追求の結果を、**実演などを交えて情報交換する**活動を取り入れる。課題解決の内容や方法、学んだことを家庭生活に生かす友達計画へのアドバイスをする。

【作品評価（自己評価）及び、作品を用いての情報交換によるパフォーマンス評価など（相互評価）】

自己決定感や効力感を高めるために、**学習したことが作品にどう反映されているのかを見取る**作品評価や完成した作品を相互に観察し、称賛やアドバイスをし合ったりする。作品評価は、パフォーマンス評価と関連付けて評価することで、総合的に評価できる。

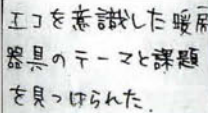
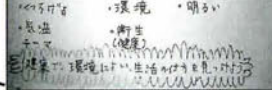
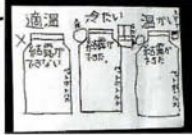



【友達の作品について、アドバイスをする活動】



以上のような考え方を基に、指導方法の要件を表4のように表した。

【表4 よりよい家庭生活を生み出す指導方法の要件】(ピンクは、感覚を味わわせるために重点化するもの)

学習過程	よりよい家庭生活に向けた	学習活動	学習の場・形態	教師の具体的な働きかけ	評価方法
みつめる	<p><b>自分の家庭生活の実態を受け止め、よりよくしていこうという必要感を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の家庭生活を想起し、よりよくなりたいたいという願いや思いを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それまでの家庭生活を振り返り、こうありたいと願う姿や知らなかったことに気付くことで課題を明確にする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの家庭生活を振り返ることができるような場</li> </ul> <p>個→全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題に気付けるような家庭の生活事象について振り返らせる。(資料提示)</li> <li>願いや課題に気付けるように発問する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の家庭生活の事象から気付きをもてたのか、振り返りカードで明確にできる。(自由記述)</li> <li>自分の家庭生活を見つめた発言ができる。(観察)</li> </ul>
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活から取り出した試行活動や生活経験から課題を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの生活経験や既習学習から予想して、体験的な活動に取り組む活動(試行活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を見つけられるような住空間の環境</li> </ul> <p>個、グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが、「できるようにになりたい。」「分かってたい。」と明確に課題を持つために、子どもたちの予想とズレが生じるようなもの、疑問をもてるような試行活動をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行活動を通して分かっていることと分かっていないことを明確にできたか振り返りカードで分かる。(自由記述)</li> </ul>
見通す	<p><b>自分が追求する課題や解決方法が決定し、やれそうだと感じる自己決定感を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共通課題と個人課題を立てる。</li> <li>追求の見通しを持ち、家庭での追求計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行活動の結果から、自分に必要な課題を見出す活動</li> <li>課題が適切か確認する活動</li> <li>学級全体で解決すべき課題と個人の課題を明確にする活動</li> <li>課題解決の内容と方法を見通しを持って計画する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題追求ができるような場の設定</li> </ul> <p>個→全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通課題と個人課題を設定するために、試行活動で気付いたことから全体での追求の必要性がある課題や発展的に扱う課題を分類させる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通課題と自分の家庭生活ならでは必要な追求項目を明確にできる。(自由記述、観察)</li> <li>追求時間、内容、方法から見通しを持つことができるようにする。(自由記述、観察、対話)</li> </ul>
追求する	<p><b>分かるようになったり、できるようにになったりしたことや、自分の家庭生活や次の時間に生かせると感じるという効力感を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活から解決方法を探る。</li> <li>課題の解決方法が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ課題をもつ友達と追求する活動</li> <li>自分の課題を解決するために、家庭で調べてきた工夫を確かめる試行活動</li> <li>根拠を明確にするために調べる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課題解決に必要な場(家庭の様子に近い場)</li> </ul> <p>グループ(課題別)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもった課題解決をさせるために、なぜその課題を追求するのか、自分の家庭生活にどう生かそうとしているのかを、考えさせる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題追求の達成状況を把握し、その後の追求に見通しを持つことができる。(自由記述、対話)</li> </ul>
まとめる	<p><b>作品の完成や調べ学習等において、頑張っ成し遂げたという有能感、自分の考えを自分の家庭生活や次の時間に生かせるといいう効力感を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>と自分の家庭生活を結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの課題についての追求結果を発表し合い、関連性などを話し合う活動</li> <li>それぞれの課題が確かにそうであるのか、確かめる活動</li> <li>共通課題を解決する活動</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの考えが視覚的にわかる板書</li> <li>解決策を確認できる場全体</li> </ul> <p>全体→個</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>追求したことの関連性などに気付かせるために、各グループの発表から分かったこと、つながっていると思うことなど聞き取らせる。</li> <li>各工夫が確かなものであるという実感をもつことができるように、確認の試行活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの発表から、分かったことを関連付けたり、自分たちの追求のよさを振り返ったりすることができる。(パフォーマンス、自由記述、作品、観察)</li> </ul>
生活化への意欲付け	<p><b>自分の考えが、他者に受け入れられ、役立った、学び合えたと感じるといいう受容感・有用感を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことと家庭生活を結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通理解事項や個人で解決したことを自分の家庭生活にどのように生かせるか計画する活動</li> <li>学習したことと、各家庭で実践したことの共通性や相違性を確認する活動</li> <li>学習したことがどのように役立ったのか振り返る活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活への生かし方が想起できるような場</li> </ul> <p>全体→個</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活への生かし方が分からない子どもには、導入の試行活動からどんな課題を家庭でどう生かすために追求したのかを思い出させる。</li> <li>自分たちが学習したことが確かなものであり、今後の家庭生活に役立つことが実感できるようにするために、自分の家庭で実践したことやそのときの様子などを発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを自分の家庭生活で確かに実践する見通しを立てることができる。(自由記述)</li> <li>学習したことを自分の家庭生活を結びつけることが実感できる。(作品、自由記述)</li> </ul>



Ⅲ 授業プラン例

# 気持ちよく生活しようⅡ～冬を快適に過ごそう～

(全9時間)

1 題材の目標

- (1) 冬という季節を快適に過ごすためにはどのような工夫があるか、手順や方法を調べて、進んで身の回りを心地よく快適に整えようとする事ができる。
- (2) 冬を快適に過ごすための工夫の仕方を、必要な条件をそろえて比較したり、自分や家族の健康と関連付けたり、自分の家庭生活に置き換えたりすることができる。
- (3) 暖かさ、風通し、明るさなどの視点から、冬のくらしを快適にするための工夫の仕方が分かる。
- (4) 冬を快適に過ごすために追求した課題を自分の家庭生活に応じて具体化することができる。

4 指導計画 (1) みつめる・つかむ・見通す (2時間)

学習活動	活動の様子
1 冬の生活で生じる問題について話し合う。	冬になると電気がかかるよ。 フローリングの部屋は寒いよ。 風邪をひきやすい。
2 学習計画を立てる。	朝や夜に窓がぬれるんだ。 冬は太陽の出ている時間が短い。
(1) 課題を決める。	冬を快適に過ごすために調べたいことは何だろうか。
(2) 課題ごとに、追求する計画を立てる。	短時間で換気をする方法は何だろう。
(3) 課題について調べる。	室内を効率よく温める方法は何だろう。
(4) 情報交換をする。	○明るさ・暖かい光の採り入れ方(採光) ○風通し・短時間でできる空気の流れ換え方(換気) ○暖かさ・短時間で ・地球に優しい暖まり方(省エネ)
(5) 『わが家の冬のくらしバージョンアップ作戦』を立てる。	・本やインターネットで調べる。 ・家族に取材をする。 ・実験をする。
(6) 『わが家の冬のくらしバージョンアップ作戦』の報告会をする。	
3 自分の課題を決める。	
4 課題を分類し、同じ課題の人同士グループを作る。	
5 グループごとに課題を明確にし、追求するための計画を立てる。	

(2) 追求する・まとめる (5時間)

学習活動	活動の様子
6 自分たちの課題にそって追求活動をする。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>&lt;明るさ&gt; ○実験例 日の当たる窓際(明るい)と部屋の奥(暗い)との気温を測る。</p> <p>&lt;風通し&gt; ○実験例 ペットボトルに水を入れ、</p> <p>(1)ストーブで温める。 (2)冷蔵庫に入れて冷やす。 (3)常温で置いておく。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・日光が当たらない。 ・気温が低い。</p> <p>・日光が当たる。 ・気温が高い。</p> <p>窓際は明るさも明るく、気温も高く暖かさにもつながる。カーテンを開けたり窓を掃除したりして光を採り入れたりする。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>○ (1)及び(2)は結露ができた。室内外の気温差によって結露ができる。 ○ 定期的に窓を開けて換気をする。</p> </div>
<p>適温 冷たい 温かい</p> <p>【結露のでき方を実験した図】</p>	



## 2 題材設定において

本題材は、自分の家庭生活に応じた課題を追求する必要があることに気付くことができ、自分の家庭生活に応じた工夫を見出すことができる。また、『わが家の冬の暮らしバージョンアップ作戦』という計画に向かって取り組ませることによって、目的に応じて工夫することの大切さや自分が工夫することで住まい方が変わること気付かせることができる。

## 3 評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	冬という季節を快適に過ごすためにはどのような工夫があるか、手順や方法を調べて、進んで身の回りを心地よく快適に整えようとすることができたか。
生活を工夫する力 (思考力・判断力・表現力)	冬を快適に過ごすために必要な条件を比較したり、自分や家族の健康と関連付けたり、自分の家庭生活に置き換えたりすることができたか。
知識・理解、技能	暖かさ、風通し、明るさなどの視点から冬の暮らしを快適にするための工夫が分かり、方法を具体化することができたか。

※ア～オは、表1『よりよい家庭生活を生み出す基になる感覚』に基づく ※㊦はグループへの働きかけ

形態・場	教師の具体的な働きかけ	評価（・は目指す子どもの姿や発言）
全体  個 → グループ グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の家庭に実態に応じた学習活動を進めることができるように、事前に各家庭において冬に困っていることや解決したいことを調べたり家族にインタビューしたりさせる。</li> <li>○ <b>冬を快適に過ごすための工夫が必要であることを感じさせたり家庭生活へ生かそうという意欲を高めさせたりするために、実際に冬の生活で生じる問題点などについて話し合わせて、冬の気候や生活に応じた工夫ができることに気付かせる。</b>・・・ア</li> <li>○ 冬を快適に過ごすための工夫を自分の家庭で実践するための追求活動や話し合い活動ができるようにするために、題材全体を通した学習計画を立てさせる。</li> <li>○ 主体的に学習に取り組めるようにするために、自分の家庭の住まい方における実態などを基にして、一人一人に課題を設定させる。</li> <li>○ 住まい方について考える際、家庭生活を総合的にとらえる必要があることに気付かせるために、一人一人の課題を明るさ・風通し・暖かさなどの視点に分類させる。</li> <li>○ 「自分の家庭の課題を解決できそうだ。」と「やり遂げよう。」という感覚を持てるようにするために、グループの編成に当たっては、同じ課題毎に類型化してグループを編成し、自分の家庭生活の課題に応じて学習できるようにする。・・・イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の家庭生活の実態から冬の住まい方での問題点を見付けることができる。(ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寒いからヒーターを使うと、「電気代が上がるし喉が痛くなる。」と母は言う。</li> </ul> </li> <li>○ 自分の家庭の冬の住まい方に関する問題点に応じた課題を設定することができる。(ノート・発言)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在はフローリングの部屋が多くて座ると冷たいから、フローリングの部屋で暖かく過ごすにはどのような工夫ができるか調べよう。</li> </ul> </li> <li>○ 明るさ・風通し・暖かさの観点から自分の課題を解決するために、どのような方法で追求すればいいか計画を立てることができる。(ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家にある床の上に置ける物を準備して、座った時に感じる暖かさを調べてみよう。</li> </ul> </li> </ul>

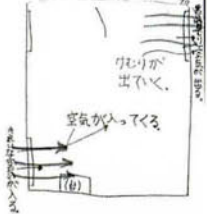
【グループで話し合う様子】

形態・場	教師の具体的な働きかけ	評価（・は目指す子どもの姿や発言）
グループ  和室・窓際・廊下など課題に合った場所で	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことを振り返り生活で生かせるようにするために、追求しながら考えた自分の家庭のことや、友達の報告を聞いて自分の生活に生かせそうだったことなど振り返りカードで自己評価させる。</li> <li>○ <b>家庭生活の工夫の仕組みが分かったことを実感できるようにするために、実験結果を予想させ、実験終了後にその結果についての原因を推測することができるようにさせる。</b>・・・ウ</li> <li>○ 常に追求活動と家庭生活とを結び付けて考えさせるために、事前に家庭での工夫の様子を調べさせておく。</li> <li>㊦ 調べ方が分からないグループには、これまでに調べた参考例を提示して、どのような調べ方があるのか参考にさせる。</li> <li>㊦ 追求の方向がずれないように、集めた情報を生かし切れていないグループには、課題を解決するために必要な情報がどこにあるのか一緒に話し合ったり、間違っただけをまとめているグループには、結果を再度確認させたり自分たちの課題を確認させたりする。</li> <li>○ 窓の位置など設計に関することに注意が向かないようにするために、家の住まいの中で自分たちができる工夫について考えさせる。</li> <li>○ 学習の意欲を高め、実践がしやすいようにするために、なぜ冬の生活においてこの追求活が必要であるのかその意義を問いながら活動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の追求が、自分の家庭生活のどの場面でのように生かせるか示すことができる。(ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水を入れたペットボトルを温めたときと冷やしたときに水滴ができるということは、時々窓を開けて室外と室内の温度差がなくなるようにすればいいんだ。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;子どもたちが自由に使えるようにしておくものなど&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※明るさに関する資料</li> <li>※結露に関する資料</li> <li>※空気の流れに関する資料</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <p>&lt;準備したもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※温度計</li> <li>※電気ストーブ</li> <li>※湿度計</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div>

【場所による明るさと気温の違いを調べる様子】

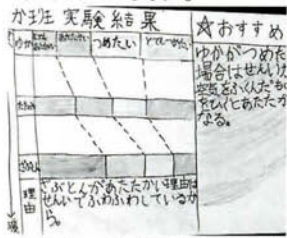


○実験例  
 (1) 窓を閉めたとき  
 (2) 窓を一つ開けたとき  
 (3) 同じ高さの窓を2つ開けたとき  
 (4) 高さの違う窓を2つ開けたときの室内の温度を調べる。

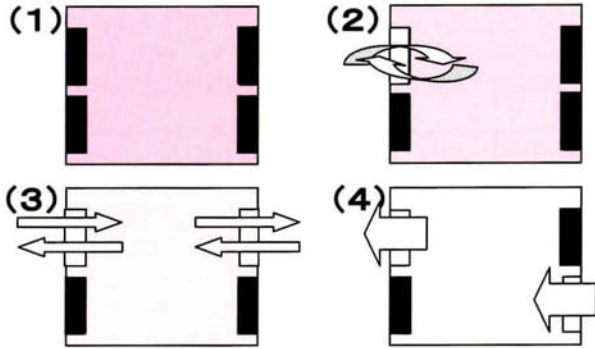


【窓の開け方による風の通り方を表した図】


<暖かさ>  
 ○実験例  
 床、座布団、畳に座り、暖かいと感じたり、温度で比べたりしてグラフに表す。




【座ったときの感じ方を表したグラフ】



短時間で空気の入れ換えができたのは、(4)(3)(2)(1)の順であった。(4)については、上の窓が室内の空気の出口となり、下の窓が室外の空気の入り口となっていた。  
 高さの違う窓を開けて短時間で換気をする。縦に長い窓を一枚開けても同じ役目を果たす。



床 ← 冷たい。





畳 ← 暖かい。

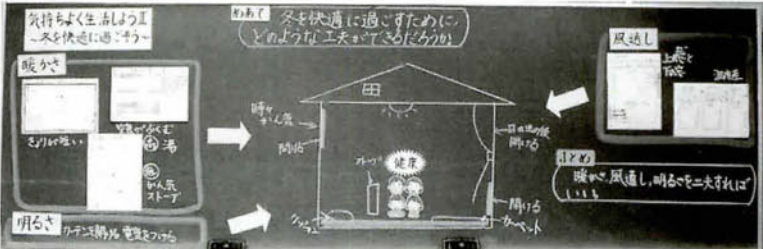
座布団より暖かく座布団より冷たい。


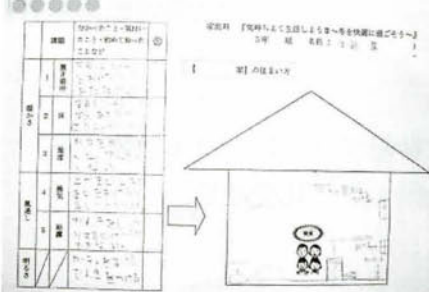
7 追求してまとめたことを発表する。

(3) 生活化への意欲付け (3時間)

学習活動	活動の様子
<p>8 自分の家庭でどのように生かせるか考える。</p> <p>9 着方や、食べ方などについて工夫できることを話し合う。                      ・袖口や襟元から空気(熱)が逃げないようにする。                      ・薄い物を重ねて着る。                      ・辛い物や温かい物を食べる。                      ・旬の野菜などを食べる。</p> <p>10 家庭で実践する『わが家の冬の暮らしバージョンアップ作戦』の計画を立てる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     首元が開いている服を着るときはマフラーをして熱が逃げないようにしよう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     旬の野菜は安いし栄養もたっぷりなんだ。根菜類は体も温まるみたいだから、お店で探してみよう。                 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     これまでは寒くていやだったけれど、換気をすると気持ちよくなった。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     加湿器を使うと朝起きた時に喉が痛くなくなった。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     エアコンの風向きを下向きにするとすぐに暖まって、電気代を節約できそう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     家族が喜んでくれた。                 </div>
 <p>【暖房器具による暖まり方を実験している様子】</p> <p>11 発表をする。</p>	



<p>全体発表グループを囲むようにして</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭で生かすという意欲を高めたり総合的に快適に過ごす工夫を考えたりすることができるようにするために、追求活動の後課題別グループで追求して分かったことなどを発表し合う。</li> <li>○ 発表会に向けて、相手に工夫のよさをより深く理解してもらえるように、工夫を見出す基になった資料を示したり、実物を示したり、グラフ化や数値化したものなどを活用して分かりやすく発表できるように助言する。</li> <li>○ 本時の学習である住まい方の工夫の具体的な追求の目的を明確にするために、家族が快適に過ごすために冬の生活に必要な条件を確認させる。</li> <li>○ <b>冬を快適に過ごす方法を見付け出したという感覚を味わわせるために、冬の生活で困っていた自分の家庭における問題点を振り返らせ、調べる計画に基づいて自分たちで解決できたことを賞賛する。</b>・・・ウ</li> <li>○ 自分たちの工夫を他のグループの友達が実感できるようにするために、具体的な数値で説明したり、実演をして発表させたりする。</li> <li>○ 考えを深めたり、追求したことをより共通に理解したりするために、各グループの発表後には質問をしたり意見交換をする時間を設ける。</li> <li>○ 初めて知ったことや家庭で生かしてみたいと思うことを実践計画で活用することができるように、発表を聞く時にはノートにメモしながら聞かせる。</li> <li>○ <b>追求してみて分かったことや気付いたことを他のグループと共有したり、友達や自分の考えを自分の家庭生活に生かせそうだと感じたり、住まい方の工夫について総合的にとらえられるようにしたりするために、全体で「明るさ」「暖かさ」「風通し」という3つの観点に基づいて話し合う。</b>・・・エ</li> </ul>  <p>【各グループで追求したことを発表する授業の板書例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後他の観点(明るさ・風通し・暖かさ)で追求活動を行う時、自分ならどのような方法で行うか具体的に示することができる(発言・ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風通しのグループが、室内外の気温差を利用して短時間で換気をする方法を工夫していた。それなら、室内の気温による空気の流れを利用して、エアコンの風向きや暖房器具の置き場所など部屋全体を早く暖める実験ができそうだ。</li> </ul> </li> <li>○ 冬に自分の家庭で生かせそうなことを自分の追求活動を通して見付けることができる。(発言・ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽の光が入る場所は明るく、また暖かく、暖房器具をあまり使わなくていいことが、実際に測った照度や気温から分かった。窓際にはできるだけ物を置かず、日の出後はカーテンを開け、自然の光を採り入れるようにすればいい。</li> </ul> </li> </ul>
-------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

形態・場	教師の具体的な働きかけ	評価(・は目指す子どもの姿や発言)
<p>全体→個 全体 個</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住生活関連学習が主な学習であるので、衣や食に関する学習は、家庭で行っている工夫を思い起こさせたり、工夫の仕方とそのよさについて話し合わせたりする。</li> <li>○ <b>学び取ったことを家庭で実践できるように、『冬の暮らしバージョンアップ作戦』の計画を立てさせる。その際、自分たちのグループや友達のグループが行った実験結果をそのまま取り入れるだけでなく、その結果を基に自分の家庭の実態ではどのような工夫ができるのかよく考えさせる。</b>・・・オ</li> <li>○ 住生活に関することを学習させるために、『冬の暮らしバージョンアップ作戦』の計画を立てる際は、住生活を中心に組み立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冬に自分の家庭で生かせそうなことを他のグループの発表から見付けることができる。(発言・ノート)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風通しグループが、短時間で換気をする工夫をしていた。高さのちがう窓を開ければいいんだな。でも、わたしの家のリビングには高さのちがう窓は無いから、家にある縦に長い大きな窓を一枚開けると空気の出入り口になりそうだ。</li> </ul> </li> <li>○ 「冬を快適に過ごそう」の学習を通して学んだことを生かして、実際に自分の家庭で住まい方の工夫を実践することができる。(ワークシート・発言)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくの家は、長い時間窓を開けておくと赤ちゃんが風邪をひいてしまう。そこで、学習した換気の仕方を各部屋で短時間ずつやると、お母さんが「助かるわ」と喜んでた。</li> <li>・ 暖かくする工夫として、靴下を履いたりカーペットを敷いたりしてみたのだけれど、結果的に「省エネにつながる」ことや「電気代がかからない」ことをお父さんが感心していた。</li> </ul> </li> </ul>
<p>【個で考えまとめる様子】</p>  <p>全体(グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭での実践は、個人のプライバシーに配慮しながら紹介する。</li> </ul>  <p>【自分の生活に生かすためのワークシート例】</p>	



## IV 研究の成果と課題

今年度の研究の成果と課題は、以下のとおりである。

### 1 成果

#### (1) 今年度の研究の成果

- よりよい家庭生活を生み出すという視点から学習指導を見直すために、基になる感覚を明らかにすることができた。
- 住生活関連学習において、これまでの実態から、住生活関連学習において、よりよい家庭生活を味わわせる必要がある感覚を洗い出し、学習内容及び指導方法を見直すことができた。
- よりよい家庭生活を生み出すという視点から、指導方法を見直して捉えることができた。

#### (2) 本研究の成果

- 自分の家庭生活を工夫し続ける姿を明確にし、その姿に向かっているような学習内容を見直したり指導方法を工夫したりすることができた。
- 学ぶ意欲をよりよい家庭生活を生み出すととらえ、それを支える感覚を明らかにし、学習指導の見直しに生かすことができた。
- 評価活動からも家庭生活とのつながりを感じられるように、項目として取り入れることができた。

### 2 課題

- 子どもがよりよい家庭生活を生み出す力をさらに高め、学習したことを活用できる力を身に付けるための見取り方やそれを生かした学習指導の改善が必要である。
- 新学習指導要領実施に向けて、家族の一員の自覚を工夫する楽しさや喜びにつなげていけるような教育課程を見直す必要がある。

#### 《参考文献》

- |                           |              |         |
|---------------------------|--------------|---------|
| ・文部省編「小学校学習指導要領解説 家庭科編」   | (開隆堂出版株式会社出版 | 平成11年)  |
| ・文部科学省編 「初等教育資料」          | (東洋館出版社出版    | 平成18年)  |
| 〃                         | ( 〃          | 平成19年)  |
| 〃                         | ( 〃          | 平成20年)  |
| ・日本家庭科教育学会編「家庭科の21世紀プラン」  | (家政教育社       | 1997年)  |
| ・「全国小学校家庭科教育研究会全国大会 研究紀要」 |              | (平成18年) |
| 〃                         |              | (平成19年) |